

ひろば大代

NO.192

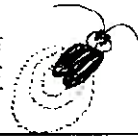
大代公民館

第十回

「都市とふる里を

結ぶ交流会」のご案内

大代高山会々長 渡 吉正



第十回の記念すべき交流会開催を理事会代議員会を通じて次のように決定しましたので、ご案内致します。

期日 八月十五日(火)

場所 大代公民館広場及び旧大代中

学校屋内体育館

日程

「第一部」

○戦後五十年記念「戦没者追悼会」

(献華方式)

十時～十時三十分

○第十回記念「都市交流会式典」及び

「功労者への感謝状贈呈式」

十時四十分～十一時

○交流会十回記念並びに大代中学校閉

校記念「大代田植囃子大行進」

(総勢二百名位が参加予定)

十一時～十二時三十分

「第二部」

○「交流会」(昼食会)

余興 「謡曲と郷土民謡」

(大代婦人会有志)

十二時三十分～十四時

○「高山神楽記念公演」

(高山神楽団社中)

十九時～二十一時

○「追悼会及び第十回交流会記念盆踊

大会」(大代なつみ会)

二十一時～二十三時

本年は「都市とふる里を結ぶ交流会

」が十回を迎えた記念すべき年です。

そして、丁度戦後五十年の節目に当る

年ともなりました。そして更に大代中

学校が閉校になった年でもあります。

お盆に帰郷の方々や、近隣の方々も町

内の皆さん方ともどもの交流会へのご

参加をお待ちしております。

なお「戦没者追悼会式典」へのご出

席方につきましては事務局よりご案内

申し上げますが、戦没者之碑への礼拝

につきましては時間の制限なくお参り

下さい。

第4回関西高山会総会の

出席方お礼とご報告

大代公民館長 渡 吉正

去る六月十一日(日)に開催されま
した関西高山会総会へは大代町から十
六名の皆さん方のご参加をみました。

ご多忙にもかかわらず遠路その
日帰りの方々もお出でになったよう
ですが、さぞお疲れのことだったろうと
ご慰労の言葉を心から申し上げます。

関西高山会総会へは東京石見高山会
々長田中憲経さん、そして同副会長の
御手洗朋子さんのお顔も見えて八十名
余の盛大な総会でした。

この度の震災で被災された皆さん方
のお顔が見えずとても淋しく感じまし
たが、大家小学校を卒えて五十年振り
に会うことが出来ました宅野(旧姓河
本)翠さんとお話することができ大変
感激致しました。

市原宗会長を始め役員の方々の心温
まるご歓待に対し、深甚なる感謝を申
し上げて此に有り難く厚く御礼申し上
げます。

「出会い・ふれあい」

の楽しみの中で

関西高山会事務局長 中本 弘

六月十一日、関西高山会総会に際し大代町から渡大代高山会々長、高村自治連合会々長・市原市会議員を始め、総勢十六名、そして田中東京石見高山会々長、御手洗副会長各氏の御出席をいただき盛会のうちに終了したことを先ず報告致します。

さて本年の総会にあたっては一部の総会を出来るだけ時間を短縮し、その分懇親会の時間を長くし「出会い・ふれあいの場」を多くしたいという考えで会を運営しました。その結果来賓の祝辞等でやや言い足りない所もあったかと存じますがお詫び致します。

懇親会はふる里大代の雰囲気を盛り上げる為「方言・訛り・ふる里大代町の想い出・名所のビデオ放映・盆踊り」で会をしめるといった具合に進行を企画しました。

特筆すべきは懇親会の乾杯前に、藤井房子さんが大代の方言、訛りをふんだんに入れた「大代の昔ばなし」をそ

の経歴、体験からわかり易く、はきはきと朗読されました。出席された方には、強く印象付けられたと思います。

また、木村幸司氏が大代の名所・想い出の場所をビデオに上手に編集され放映されました。子どもの時に遊んだドンドン淵、八反田川、オニガ峠など楽しく解説入りで見せていただきました。最後の盆踊りが時間の都合で十分踊っていただくことが出来ませんでしたのでやや心残りです。

その他中国、韓国の歌手、それに一步もひけをとらない山口正晴氏の妹さんの玄人はだしのノドでカラオケをばっちりしめていただきました。本当に時間の経つのもしばし忘れた盛況ぶりでした。

なお来年は六月九日第五回記念総会を開催予定です。役員一同お待ちしております。

「和やかな関西高山会」

柿田 藤井房子



六月十一日、朝三時出発で関西高山会総会へ今年も参加させて頂きました。

十年前東京石見高山会が結成され、関西でも早く結成されたいと願いつつもその日が訪れず、六年後に結成された時の嬉しかった強い感動を思い出します。

盆踊りの口説きが微かに流れる会場に入り、懐かしい顔ぶれに接し握手しながら話はずきません。

十時から三時半頃までの短かく感じる時間は、先ず「会えてよかった。」の感謝一杯の時でした。

会では阪神大震災犠牲者へ黙祷し、被災者から大代へ見舞のお礼の言葉がありました。

東京からも会長様外数人が出席されており、去年の十周年記念行事の紹介もありました。来年迎えられる五回目の関西高山会総会行事が待たれます。

町、いや社会へ奉仕がしたい。今の私では何が出来ると常に考えているので、元気であれば参加したい。来年のことを言えば何とやら言いますが楽しみにしています。

懇親会では最初に「大代の方言表」が会員に配られました。まとめ役の渡館長は大変だったと、敬服しました。

次に二日前に渡館長から発表を依頼された「小豆とき婆さん」の大代民話のお話です。地元に住ながら知らない話ですし、声の悪い私ではとお断りしていたのですが朗読で済めさせてもらいました。会員さんが「方言が懐かしく涙ができましたよ。」とおっしゃられ一人でもそんな気持ちになられてよかったですと思いました。

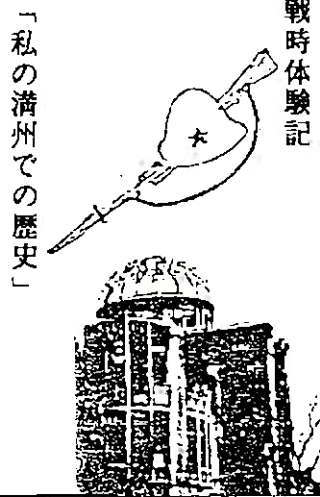
後、途絶えることのないおしゃべりの中、木村幸司さんの放映される大代の名所めぐりのビデオでは釘付けになっている会員さんの姿が印象的でした。次の盆踊りの囃が流れ誰とはなしに踊りの輪が広がりました。名残りはつきない会ですが、帰路も考え司会者のリードで散会となり、再会を約束しながらエレベーターに乗っておられました。

翌日出席者から届いた便りが感激を新たにしました。

「なつかしい顔、忘れかけていた顔に会えてよかった。今は不景気で仕事の面で沈み込んでいた私だが大代出身者がそれぞれに頑張っていることを目の

当りにし、自分も勇気づけられた。」と書いてあり、「石見神楽が見られたらなあ。」とも添えられていました。高山会の意義が一層深いものに考えられました。ハードスケジュールの一日でしたが二人の運転者に感謝し、楽しくて充実した一日に有難うございましたと心から言える日だったと思います。

戦時体験記



「私の満州での歴史」

益田市 高崎 楸

大正五年生まれの私は、日中戦争・太平洋戦争・敗戦・満州引揚と私達の祖先が一度も体験したことのない国難にあり、それをのりこえて今年七十九才をクリアー、親しくしていた友人のほとんどが亡くなった。

この稿は一九三九年から四八年の十年間の私の歴史です。

満州引揚後、二年郷里での生活の間に作詞した大代田植囃子歌集、大家元広落城哀歌（大代盆踊り口説）は、四十八年を経て今なお歌いつがれていることは私冥利につきるものと思う。

生家はなくても大代は私の終生の故郷、私は大代人である。

今にして思えば満州国（中国）は、国際連盟の各国が認めていない異質の国であったが、まさかあのような結果になろうとは夢にも思うことなく、東京市役所（今の東京都庁）に勤めていた私は、あたかも地方都市に転勤するような気持ちで満州奉天（瀋陽）に立つ。汽車賃は釜山經由三十三円位だった。時は昭和十四年四月の初め。

国策会社東洋拓殖の傍系東省実業に就職。東洋拓殖は、日露戦争後日本の朝鮮における権益にもとづいて設立した日本政府の特殊会社で、昭和に入り関東軍の食料増産のため莫大な資本を外地に導入したが、終戦時マッカーサーの命により第一次閉鎖機関に指定さ

れた。終戦時東拓の關係会社八十五社、東省実業は傍系第一号の金融会社で、大企業中心の東拓に対し、中小企業を主体とし、融資先の大半は中国人の商社で、私たちは中国人から慕われている。侵略者という悪感情は持たれていなかったと思う。

奉天には親戚の山本義信一家、同郷の木村良三氏は建材商として成功しておられ、私の満州転出は同氏の感化による大きかった。

昭和十五年九月ハルビン支店牡丹江支所長として牡丹江に転勤。牡丹江市の周辺には日本の軍隊が充満しており山下奉文大将の姿も見えた。日本の出先機関（領事館）がなくなったので、東拓は拓務省（大東亜省）の出先機関として役人や軍人が挨拶に来られた。大將級の場合は大和ホテルで拜謁を賜った。

十六年二月十日勃利訓練所に親戚の達雄少年を慰問、私と彼の間には一生忘れることの出来ない出会いがあった。訓練所の所長は海軍少将で、少年義勇隊を批判することは出来ない時代であったので、多勢の少年を預かっていた。

るが先の希望については大変だと言っていた。少年達は将来大きな土地が得られ、理想郷がつくられる夢を持っていた。その時の写真が高崎章君の宅には残っていると思う。

母一人子一人の私は十六年九月大家から母を迎えた。五十八才の母は社宅内で一番の年長者であったためか、高崎のお母さんと慕われ、若い奥さん方に料理を教えていた。母は牡丹江時代が一生の中で一番幸せだったと言っていた。

十八年奉天本社に帰る。奉天は満州の入口であり、同郷の方がよく立ちよられた。椿の谷口仁作氏は軍需工場につとめていて、休日には母がいる関係もあり、親元のように来ていた。五月招集令状が来る。応召したところ、五月の北、春化（満州・朝鮮・ソ連の国境三角地点で敗戦直後ソ軍が侵入した地点。）で私は特殊会社の職にあった関係で解除となる。解除されたグループのほとんどは満鉄の機関士軍需工場の技師で事務系は商工会議所の役員と私の二人であった。二十年八月十七日、ソ連戦車隊奉天

侵入。戦争が終わったと安心したのもつかの間、二十日には住宅を追われ、着のみ着のまま、母は入れ歯さえ置いたまま露町の親戚山本宅に避難した。

その直後日本人居留民会南弥生霞分区の区長になられた山本謙幹氏（東拓の取引先で農場経営）が私を分区の事務局長にとすめられたので引き上げた。事務所では私の協力者横沢氏（満州軽合金課長慶応大学出身）他各社に努めていた優秀な青年十数名で、翌年引揚まで奉仕した。今どきの如何なる会社の猛烈社員にも負けない命がけの仕事であった。

新京から南下して来た従弟脩君が母の面倒をみてくれたので精一杯の仕事が出来た。分区といっても、後に日本人留用者の地域になったところで、大田市の人口より多かった。年末には分区長が交替し古手川忠助氏（満州国際運輸の重役で帰国後大分県議会議長）を中心として自衛的組織により地区民を守った。

地区の引揚は二十一年六月頃婦孺（未亡人）部隊から始まり、その空家には留用者の家族が早いものがちに入っ

て来た。満州重工業總裁高崎達之助氏の住居もお世話した。

日本人引揚後の財産は占領軍に引きつぐことになっており、引揚を完了した他の地区では、責任者が残って残務整理をしていたが、私は病気の母の關係もあり、引揚が終了する前にその事務を完了したので、占領軍の所長から感謝状とビールを貰った。このような例は外にはなかったものと思う。

七月頃から奉天病第四大隊（病人部隊）の編成を始める。私は指揮班の総務を担当、日本上陸までに要する書類が大きいやなぎ行李で二つあった。

奉天を八月六日出発、コ口島に約四週間収容された。その間毎日病人が死亡、コ口島の丘に埋めた。九月始めLST（米軍上陸用舟艇）で佐世保入港。その間の死亡者は水葬、又投身自殺者もあり、その哀れな悲しさは今でも忘れることが出来ない。九月十七日奉天出発後四十三日ぶりに郷里にたどりついた。

二十三年十月島根県議会議事事務局に就職するまでの二年大家で生活。九大の教授をしていた叔父（井田高崎）の物

理学のテキストを謄写印刷する仕事を与えられ生活の糧とした。又役場のアルバイトとして、戦後始めての公職選挙事務を手伝った。

交通安全協会よりのお知らせ

大代交安協 市原仁郎

去る六月十三日大田市民会館中ホールで、平成七年度大田市交通安全協会の通常総会が開かれ、次の方々が表示されました。（敬称略）

「交通功労者」

渡辺寿雄（四日市）

「十年以上優良運転者」

岡田祥子、山下テル子（柿田）坂本

春夫、坂本久美子（山田）武田弘義

（飯谷）三宅榮里子（八反田）山口

汎子（上市）荒本由未（四日市）

種原晴美（椿）

皆さんおめでとうございました。今後共安全運転で二十年表彰を目指して頑張ってください。

後共安全運転で二十年表彰を目指して頑張ってください。

*** 七月の行事 ***

◆1日（土）福祉委員会

◆1日（土）田植囃子大行進実行委

◆4日（火）編集委員会

◆6日（木）ダイヤゾンボール教室

◆15日（土）福祉委員会

◆16日（日）高山地区親善相撲大会

◆17日（月）子宮がん検診

◆21日（金）胃がん検診

◆22日（土）連合自治会

◆23日（日）参議院議員選挙日

◆27日（木）ダイヤゾンボール教室

★——★ おしらせ ★——★

◎大代町ランドゴルフ同好会大活躍

六月十四日大田市老人クラブ主催の

ランドゴルフ大会に於て大田市の新

記録をもって個人で渡辺寿雄さん（四

日市）が優勝、また団体では第三位の

好成绩をおさめました。

六月十六日の大田市主催の同ゴルフ

大会では高崎章さんが優勝、それぞれ

おめでとうございました。

◎社協大代支部から

下飯谷 高村春美様より

香典返しに替え金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。